

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	北海道		学校名	幌延町立幌延中学校	
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	全学年 特別活動	時数等	1 時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の生命を尊重し、健康や安全に気を付ける態度を育む。 ・ 豊かな心を持ち、互いのよさを認め合う態度を育む。 ・ 自分と仲間のよいところを見付けることができ、言葉に出して言えるようにする。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動の中で、挨拶運動やふれあいの花（プランターづくり）、道教委主催の絆づくりメッセージコンクールへの参加など、外部や地域との連携・協力を意識した活動を数多く展開し、地域の方々との関わりを大事にした。 ・ 「いじめ」「デートDV」と題して、幌延町人権擁護委員による人権教室を開催し、子どもの人権についての理解を深めた。（各1時間） 				
工夫した点	<p>（指導上の工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科横断的な形で3年間を見据えたストーリー性をもたせた取組を通して、生徒自身が人権教育の推進に係る工夫・改善に努めた。 ・ 事前に生徒アンケート等を行い、学校生活全般に係る教育相談週間を年3回程度設けた。 ※うち、1回は生徒が相談したい相手を指名して行った。 <p>（地域や関係機関等との連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幌延町人権擁護委員による人権教室の開催やスクールカウンセラー、北海道教育庁宗谷教育局指導主事からアドバイスをいただいた。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 社会科で基本的人権に係る内容について学習した。
- ・ 道徳科において、「いじめ」や「子供の権利」等について考える学習をした。

事業成果

- ・ 知識的側面：「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」
事業開始時：100% ⇒ 事業終了間際：100%
【生徒変容の分析】
いじめ、虐待に関心を持っている生徒は100%であり、教職員の生徒への接し方も含め、互いに居心地のよい空間について自然と考えられるようになった。
- ・ 価値・態度的側面：「自分と同じように、相手のことを大切にしようとしている」
事業開始時：97.9% ⇒ 事業終了間際：100%
【生徒変容の分析】
本校が掲げている目指す学校像「日本一温かな学校」を意識しながら、どのような場面や状況下においても相手や仲間のことを考えながら行動をとれる生徒が増えてきた。
- ・ 技能的側面：「学級のみならずまわりの仲間たちと協力して活動することができる」
事業開始時：93.8% ⇒ 事業終了間際：100%
【生徒変容の分析】
縦割り活動を大切にし、一人一人が楽しみながら活動していることが多くなった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	北海道	学校名	幌延町立幌延中学校
人権課題	高齢者	対象学年・ 取り扱った教科等	第1学年 技術・家庭 第3学年 総合的な学習の時間
		時数等	2～4時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高齢者との交流を通して、共に生きていくために必要なことや、何ができるかについて考えようとする意識を高める。 ・ 高齢者の現状や課題、幌延町の施策についての理解を深め、高齢者にとって住みやすいまちについての考えを共有できる。 		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域には、どのような人が住んでいて自分や家族とどのようにつながっていて、どのようなかわりか大切なのかを考えた。（2時間） ・ 町民として、地域の人々とどのようにかわり、どのような取組を通して地域の方々の役に立つことができるかを考えた。（2時間） ・ 町内における資源回収の活動において、地域住民との会話により交流を図った。（2時間） 		
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書、新聞記事、町の広報誌、施設のお便り等を活用し、地域で行われている活動や実際に生徒自身が参加している活動について振り返り、自分の家のまわりには、どんな人が住んでいるかを図式化してまとめることで、図を通して、家族や自分がどのようなかわり方をしているかを明らかにした。 <p>(地域や関係機関等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内における資源回収の活動を通して、地域の高齢者との交流を図った。 ・ 中学校に気軽に来校していただけるよう地域参観日を設け、生徒の様子を見ていただいた。 ・ 登下校時において、生徒自身から地域の方々へ進んで挨拶することを働きかけた。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・社会科で基本的人権に係る内容について学習した。
- ・総合的な学習の時間において、地域探究に係る内容の中で、施設の状況や今後の在り方について考える学習を展開した。

事業成果

- ・知識的側面：「全ての人が大切にされなくてはならない」
事業開始時：91.3% ⇒ 事業終了間際：89.7%
【生徒変容の分析】
地域にいる高齢者について意識してかわりがもつことができるよう、自分たちが自信をもっている合唱活動を生かすことや日常的なかかわりとしての挨拶の大切さを理解するようになった。
- ・価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができる」
事業開始時：89.6% ⇒ 事業終了間際：93.1%
【生徒変容の分析】
困っている人がいたら、自分から声をかけようとする姿勢が随所で見られるようになった。
- ・技能的側面：「車いすに乗った人が、道に段差があって進めなくて困っています。その時、声をかけるなど自分から手伝えることができる」
事業開始時：82.9% ⇒ 事業終了間際：82.9%
【生徒変容の分析】
介助や助け合い等について、自分だけでできること、自分一人ではできないときには協力してもらうなど、自分で考える生徒が多くなった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

幌延町立幌延中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

第1学年 技術・家庭

時数等

4時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害者との交流等を通して、共に生きていくために必要なことや何ができるかについて、考えようとする意識を高める。
- ・ 障害者の現状や課題、障害者を支援している事業者や幌延町や近隣自治体の取組についての理解を深め、障害者にとって住みやすいまちについて考えることができる。

実施した内容

- ・ 地域には、どのような人が住んでいて、自分や家族とどのようにつながっていて、どのようなかかわりが大切なのかを考えた。（2時間）
- ・ 地域の一員として、地域の人々とどのようにかかわり、どのような取組を通して地域の方々の役に立つことができるかを考えた。（2時間）

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ 教科書、新聞記事、町の広報誌等を活用し、地域で行われている活動や実際に生徒自身が参加している活動について振り返り、家族や自分がどのようなかかわり方をしているかを明らかにした。
 - ・ 知的障がいに関する取扱いについては、十分な配慮が必要であると考えたことから、主に身体に障害のある人たちと関わる時の留意点について考えるようにした。
- (地域や関係機関等との連携)
- ・ 地域や福祉施設のイベントへの参加、福祉施設側から慰問等の要請があった場合、できる限り対応できるよう日課表の変更も含め、交流を大切にしていくことを確認した。
 - ・ 定期的に教職員と施設職員との情報交換の場を設けた。（学期に1回程度）

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・社会科で基本的人権に係る内容について学習した。
- ・保健体育科でパラスポーツや障がいの有無にかかわらない運動について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「全ての人大切にされなくてはならない」
事業開始時：91.3% ⇒ 事業終了間際：89.7%
【生徒変容の分析】
障がいのある同級生と日ごろから接することで、障がいの有無に関係なく、周りの人々と協力し合える社会を目指す必要があること。そのためには、相手意識をもって理解できるような言葉や態度で言葉かけの大切さを意識するようになった。
- ・価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができる」
事業開始時：89.6% ⇒ 事業終了間際：93.1%
【生徒変容の分析】
困っている人がいたら、自分から声をかけようとする姿勢が随所で見られるようになった。
- ・技能的側面：「車いすに乗った人が、道に段差があって進めなくて困っています。その時、声をかけるなど自分から手伝うことができる」
事業開始時：82.9% ⇒ 事業終了間際：82.9%
【生徒変容の分析】
介助や助け合い等について、自分だけできること、自分一人ではできないときには協力してもらうなど、自分で考える生徒が多くなった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	北海道		学校名	幌延町立幌延中学校	
人権課題	アイヌの人々	対象学年・ 取り扱った教科等	第3学年 総合的な学習の時間	時数等	5時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ウポポイや国立アイヌ民族博物館の見学を通して、生徒自身がこれから歩いていく多様な文化が共存する人生について、「どんな価値観や生き方、文化を大切に生きていくか」を自分なりに考えることができる。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で、生徒自身とアイヌ民族の生き方を対比させながら、自分なりの考えをまとめ、国立アイヌ民族博物館では、「アイヌ民族はどんな歴史や文化の中で生きてきたのだろう、そして生きているのだろう」という視点で見学し、振り返りで「自分は、どんな文化の中で生きているのだろう」と自分なりに考えをまとめた。（3時間） ・事後学習で、アイヌ民族との関わりの深い人物の生き方について振り返り、考えをまとめた。 				
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習や事後学習で、自分で調べたり振り返ったりすることができるよう、幌延町生涯学習センター図書室及び学校図書館にあるアイヌ民族に係る書籍を集め、コーナーとして展示した。 ・生徒自身とアイヌ民族の生き方を対比させ、多様な文化が共存する人生を考えさせた。 <p>(地域や関係機関等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立アイヌ民族博物館の学芸員との連携を図り、事前にオンラインで学習を行い、修学旅行でウポポイを訪問するに当たっての課題意識をもたせるようにした。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 社会科でアイヌ文化に係る内容について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「全ての人大切にされなくてはならない」
事業開始時：91.3% ⇒ 事業終了間際：89.7%
【生徒変容の分析】
国立博物館アイヌ民族博物館の見学を通して、改めて、これから自分自身が歩いていく多様な文化が共存する人生について、「どんな価値観や生き方を大切に生きていくか」を生徒一人一人が自分なりに考え、まとめることができるようになった。
- ・ 価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができる」
事業開始時：89.6% ⇒ 事業終了間際：93.1%
【生徒変容の分析】
ウポポイを見学してから北海道にいるアイヌ民族について、同じ道産子として接することの大切さを改めて感じるようになった。
- ・ 技能的側面：「いじめや差別をしている場面を見たとき、助けることができる」
事業開始時：62.1% ⇒ 事業終了間際：62.1%
【生徒変容の分析】
偏見や差別については、頭の中では理解しているものの、いざそのような場面になったときは自分一人で助けることができるか不安に思っている生徒が多い。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	北海道		学校名	幌延町立幌延中学校	
人権課題	ハンセン病患者等	対象学年・ 取り扱った教科等	第2学年 特別の教科	道徳	時数等 2時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病について正しく理解し、誰もが嫌な思いをしない社会にするためには、どうしたらよいかを考えられるようにする。 ・「ハンセン病」についての理解を深めることにより、感染症による差別と関連させ、差別を生まないようにするためには何が大切なのかを考えられるようにする。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県にある長島愛生園歴史館の田村朋久主任学芸員が来校し、「はじめて学ぶハンセン病問題」と題して講話を行った。新型コロナウイルス感染症とも関連付け、感染症に対する差別や偏見についての理解を深めた。 				
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や岡山県長島愛生園歴史館等から、「ハンセン病」に係る文献や参考資料を取り寄せ、講演後にも生徒自身で振り返りができるようにした。 ・学校図書館に「ハンセン病」に関連する書籍を常設した。 <p>(地域や関係機関等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道内においては、「ハンセン病問題」についてあまり触れていない学校が多いことから他校へ講話等があることを情報提供した。 ・岡山県長島愛生園歴史館の田村主任学芸員と連携を図り、いつでも「ハンセン病」理解のためのオンライン研修ができるようにした。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・社会科で基本的人権に係る内容について学習した。
- ・学級活動でその他の感染症等と関連させ、不安な気持ちが差別につながる構造になっていくことがあることについて触れるようにした。

事業成果

- ・知識的側面：「全ての人大切にされなくてはならない」
事業開始時：91.3% ⇒ 事業終了間際：89.7%
【生徒変容の分析】
長島愛生園歴史館の田村主任学芸員から「ハンセン病」の問題について、感染症に対する差別や偏見と関連させて説明していただくことによって、理解が深まった。
- ・価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができる」
事業開始時：89.6% ⇒ 事業終了間際：93.1%
【生徒変容の分析】
治る病気としての理解が深まることによって、感染症等に対する正しい理解の下で行動することの大切さが分かるようになった。
- ・技能的側面：「あなたのまわりに、HIV感染者（エイズ患者）やハンセン病回復者の人を避けたり、怖がったりする人がいたとき、その行動が間違いであることを説明することができる」
事業開始時：27.6% ⇒ 事業終了間際：27.6%
【生徒変容の分析】
自分一人では声を上げることはできないと感じている。頭で分かっているけれども行動に移すことの難しさがある。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	北海道		学校名	幌延町立幌延中学校	
人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	第1学年 技術・家庭	時数等	4時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの利用者として被害に遭う可能性と対策を考えるとともに、情報を発信する側として加害者になる可能性もあることを知り、両側の視点から、より身近な問題として考えられるようにする。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のインターネットの利用状況を把握するとともに、映像教材や資料等を活用し、安全な利用の仕方について、自分ごととして考え、取るべき態度について理解を深めた。(2時間) ・PTAと生徒と一緒に学ぶ「情報リテラシー」に係る講演会を開催し、具体的な事例を通して、インターネットを利用する上での危険性について理解を深めた。(2時間) ・道教委主催の絆づくりメッセージコンクールのメッセージ部門に応募した。 				
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いの際に、マイナス面だけでなく、プラス面に目を向け、インターネットやSNSを上手に利用するための方法を考えさせ、自分なりにできるような取組についてまとめた。 <p>(地域や関係機関等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携を図り、スマートフォン利用に係る家庭でのルールを明確にしてもらうとともに、保護者を対象にした入学説明会で警察署員による情報リテラシーに係る講話をしていただいた。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・ 社会科で基本的人権に係る内容について学習した。
- ・ 道徳科で「主として集団や社会との関わりに関すること」と関連させて学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「自分や他人の人権が侵害されたときに、どのような対処の仕方があるのかを知っている」
事業開始時：58.3% ⇒ 事業終了間際：58.6%
【生徒変容の分析】
情報リテラシーについて考えたことにより、SNS上での送信の際の言葉について気を付けるようになった。
- ・ 価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができる」
事業開始時：89.6% ⇒ 事業終了間際：93.1%
【生徒変容の分析】
インターネットによる人権侵害について意識するようになり、トラブルに巻き込まれないよう、互いに気を付けるようになった。
- ・ 技能的側面：「様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、あつかうことができる」
事業開始時：87.4% ⇒ 事業終了間際：96.5%
【生徒変容の分析】
端末を使い、インターネット上で情報収集することが当たり前となり、情報源の確認方法の在り方や、文献、資料で調べることの大切さについて伝えていく必要がある。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	北海道		学校名	幌延町立幌延中学校	
人権課題	北朝鮮当局による 拉致問題等	対象学年・ 取り扱った教科等	全校 特別活動	時数等	1 時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮当局による拉致問題とはどのようなことなのかを正しく理解できるようにする。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・8月10日に行われた「拉致問題に関する中学生サミット」へ参加した代表生徒による全校生徒への報告会を実施した。北朝鮮による拉致被害者家族連絡会代表からの講話や、同世代、家族、地域の人に拉致問題を効果的に伝えるための動画広告の作成を通して、拉致問題への理解を深め、経験したことを校内で発表した。 				
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら拉致問題を主体的に考える機会となる「拉致問題に関する中学生サミット」に、若い世代への啓発をミッションとして参加させたり、成果報告会で発表させたりすることにより、自校はもとより、管内での機運を高めるようにした。 <p>(地域や関係機関等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメ「めぐみ」の視聴や拉致問題に関するパンフレットについて、内閣官房からの情報提供を活用した。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 社会科で基本的人権に係る内容について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「自分や他人の人権が侵害されたときに、どのような対処の仕方があるのかを知っている」
事業開始時：58.3% ⇒ 事業終了間際：58.6%
【生徒変容の分析】
中学生サミットに参加し全校生徒への報告会を行ったことにより、北朝鮮当局による拉致問題についての理解が深まった。
- ・ 価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができる」
事業開始時：89.6% ⇒ 事業終了間際：93.1%
【生徒変容の分析】
日本国内における拉致事件についても関心をもつ生徒もいた。
- ・ 技能的側面：「様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、あつかうことができる」
事業開始時：87.4% ⇒ 事業終了間際：96.5%
【生徒変容の分析】
中学生サミットで出されたアイデアを基に作成されたCMを共有し、拉致問題の早期解決について何ができるかを考えられるようになった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	北海道		学校名	幌延町立幌延中学校	
人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	第1、第3学年 総合的な学習の時間	時数等	5時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・性の多様性について考えることを通して、生徒同士が互いのよさに気づき、自他の違いを認識し、個を尊重する心を育む。 ・自分らしさ、自分を大切にしようとする態度を育む。 ・教職員がLGBTQの存在を認識した上での学校教育を推進していくことを共有する。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習や関係機関等の訪問を通して、学んだことをまとめ交流する。 ・幌延町のこども議会等で町全体として取り組んでほしいことを一般質問する。（5時間） ・上級生が調べてまとめたことを下級生の前で発表するなど、学校全体でLGBTQについての考えを共有した。（1時間） 				
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習の際に正しい情報が入手できるよう、宝塚大学の日高教授にアドバイスをいただきながら、LGBTQに関わる文献や参考資料を準備した。 ・教職員研修で学んだことを踏まえ、生徒や保護者向けに「ほけんだより」を作成し、性的指向や性自認等に関する情報提供を行った。 <p>(地域や関係機関等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の知識・理解を高めるため、昨年度に引き続き、宝塚大学の日高教授に講義をしていただいた。稚内市、豊富町、幌延町の3市町の教育研究会主催で実施することで、性的指向や性自認について、教育課題の一つとして、日ごろから話題にできるようにした。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・技術・家庭の衣生活に係る学習で、制服を取り上げ、LGBTQを関連させた授業を展開した。
- ・特別活動「性に関する指導」で性的指向、性自認等について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている」
事業開始時：91.5% ⇒ 事業終了間際：96.4%
【生徒変容の分析】
個を尊重することの大切さを意識するようになった。
- ・価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができる」
事業開始時：89.6% ⇒ 事業終了間際：93.1%
【生徒変容の分析】
困っている状況に応じて、自分がどんな方法で助けてあげられるかを一人一人考えられるようになった。
- ・技能的側面：「身近な人から（家族・友達・友人）などからLGBTなどの性的マイノリティであると打ち明けられた場合、そのことについて理解することや受け止めることができる」
事業開始時：82.7% ⇒ 事業終了間際：82.7%
【生徒変容の分析】
先輩たちがジェンダーに関することを調べ、幌延町こども議会で、一般質問したことをきっかけに、生徒一人一人が性的指向や性自認について、深く考えるようになった。